

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平25年10月25 日

開催日	平成 25年10月24日	時 間	10:00～11:45
場 所	金沢地区センター余暇室	出席人数	13 名
講 師	真田雅行氏	作成者	鈴木浩士
テーマ	第二学習 秋葉山詣 ①		
概 要	<p>今回から秋葉山参詣の道中記。筆者は文政8年(1826)1月7日に神奈川宿を出発している。1月4日から6日までは年始の挨拶(禮)の様子などが簡単に記されている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・七日。天気。夜明けに出立。供の七五郎と保土ヶ谷で待合せ。連れは長瀬氏と白子屋重蔵。同じ宿内の他の町からも代参が出ている。南郷に泊る。</li><li>・八日。天気。馬入川、平塚、大磯、梅沢、前川村、小田原を過ぎ、湯本へ着く。長七、私、白子屋の三人は湯本の福住屋へ泊ったが、他の連れは畑村泊り。</li><li>・九日。天気少々曇る。北風。早朝出立。畑村の箱根権現へ参詣。お関所も通り、三嶋宿まで下って沼津宿へ日暮れに着く。この宿の元問屋に泊る。</li><li>・十日。雨天。早朝出立。原宿、吉原宿の間に柏原と言う所があり、うなぎその他の名物が多々ある。富士川も越え蒲原宿のえび屋に泊る。途中で藝(?)前国の商人と道連れになり同宿。</li><li>・十一日。早朝出立。油井から天気になった。この辺りは景色が良い。西倉沢は名物のサザエ壺焼きがあるとともに、サツタ峠があり、景色が良い。下りは駕で駿府中萬屋へ着く。前出の商人と同宿する。</li><li>・十二日。早朝出立。御城を見物し、浅間社に参詣。所々見物し阿部川町も見物。丸子宿を越え岡部宿の端から駕に乗り、藤枝宿に着く。嶋田宿の川越吟味所へ行く。臺越で大井川を渡り金谷小松屋に着く。ここで泊り。</li><li>・十三日。早朝出立。金谷峠越え。風景良し。佐夜中山飴餅、夜ナキ石、松を見物。日坂峠を下り宿に着く。名物はわらび餅。掛川宿の端から秋葉山への道があり、大鳥居がある。五十丁で森村、三倉村。この間に川が三拾五六もある。三倉村白木屋へ泊る。</li><li>・十四日。天気、春風寒い。白木屋出立。一ノ瀬村、大保村。ここから馬に乗る。山本の大日坂と言う所で神奈川宿の代参の者と行合ったが、別れた。セツ頃三尺坊に着き、休息。正観音秋葉山大権現へ参詣。お札など頂戴し、見物もした。。</li><li>・十五日。大雪。山下は雨。朝六ツ時過ぎ出立。北風強く、森村鍵屋に泊る。</li><li>・十六日。天気。西風。鍵屋出立。掛川宿着。佐夜中山日坂峠を越え、金谷小松屋泊。</li><li>・十七日。朝、雨少々、すぐに天気。早朝出立。川役所で宿役人の旨を申して勘弁願ひ、臺越で川越え。嶋田宿、藤枝宿の端の瀬戸川は徒歩渡して越えた。そこより駕で岡部宿着。丸子宿、阿部川宿を過ぎ、駿府大村屋に泊る。この宿は荒宿の下駄屋平八の姉とのこと。秋葉山代参の途次、逗留していた。</li><li>・十八日。雪風で寒い。大村屋出立。久能山道に入る。久能山を参詣し、江尻宿へ。この間に日蓮宗 (以下、次回)</li></ul>		
備 考			
次回予定	平成25年11月14日 10:00～12:00 於:金沢公会堂3号室 第一学習 小田原宇佐見家文書他 ①		